

【農業における新エネルギーの活用とまとまりのある産地づくりについて】

D： 土佐あき農協の職員として農業分野についてお話させていただきます。

農家の経営指導を行っていますが、資材の高騰、販売単価の頭打ち等、非常に経営が苦しくなって、不振農家が非常に多くなってきています。重油の高騰に関しては、木質ペレットということもありますが、安芸地区だけでも1600台の加温機があるんです。それを全部ペレットに変えたら、日本全部で作っても供給が間に合わない、というような状況ですし、このペレットに関しては、3トンくらいのユニットがハウスの近くまで入らないと供給ができないということです。600キロくらいの量のものを持って行かないといけないものですから、道幅が限られてきます。

今、考えているのは、ペレットの部分と、電気の部分、それと重油の部分。この3つで考えています。

知事： ハイブリッドということですか。

D： そうです。それと、重油は、何とかコストを下げようと200キロとか500キロのタンクを高所に据え、そこから落差でハウスまで供給させる。それは山梨の方でやっており、視察にも何回か行きました。それにするとかなりコストが安くなりますし、地震の時の油の流出もかなり解消できるということも考えて、その3つの部分でやっていこうと考えています。

それと、地域アクションプランの中でも最重点で取り組んでいただいている、「まとまりのある産地づくり」についてですが、安芸地区は「日本一の冬春ナス」の産地ということで位置づけされています。けれど、出荷先がバラバラで統一されたものがなく、生産者のまとまりがない。これをまとめていくのが本当に農協の責務だと思っています。

「土佐鷹」という品種でブランド化しようと県と共に力を入れています。当初の計画の80ヘクタールに対し、5年かかって、まだ30ヘクタールです。

その原因は面積が少なく、1月、2月の転換期になると市場に行く量が少ないため有利販売できないことにあります。その問題について、系統外の方々と、JAが話し合う必要があります。高知県の野菜というのが、これからますますまとまりのないものになっていくので、そういう場が必要だと思います。

もう一つ、レンタルハウスの普及はこれからも是非続けていっていただきたいと思いません。

当組合のほうでも、研修生を2年間受け入れてやっていますが、研修の2年が済み、1人で作りなさいと言ってもなかなか大変ですので、この中間にJAが入ろうとレンタルハウスを作り、そこで2年間もう一度、JAの指導のもとに生計が立てるようなものを作っていきたいということで、来年度から取り組みをしています。

知事： 高知県は、一次産業をとにかく大事にしなければいけません。経済学の理論で、比較優位理論。「自分が持っているものの中で一番強いものを生かせ。これを生かすべし。」もう一つは、「自分が多く持てるものを生かせ。」これがヘクシャー＝オリーン理論。いずれにしても高知県の場合、自分が持っているものの中で一番強いものと言われれば、やはり農業をはじめとする一次産業でしょう。

ですから、この一次産業を一つの基軸に据えて、雇用をもっと生み出すために関連する観光であるとかを育てていきたい。

さらには、加工を支えていく機械産業などの二次産業、さらには観光を支えていくいろいろなサービス業が、全体として広がっていくような、真ん中に一次産業があって富士山のような裾野が大きく広がるかたちの産業構造というのを是非目指していきたいと思います。そういう点においても、この安芸の園芸農業は素晴らしいと思いますから、是非また頑張ってもらいましょう。

ご指摘の点ですが、ペレットのことは、できるだけ多く入れ替えしていければと思っているところですが、配送と灰の処理という2つの点でコストがなかなか見合わないところがあると思います。

遠隔地からペレットを作って運び込む、さらには灰を集めるシステムはどうすべきか、そういうことも勉強しないといけないと思います。

当分はハイブリッド型にならざるを得ないと思います。それでも今よりもペレットボイラーの使い道をもっと増やしていけるようにしていきたいということで、今、どれくらいのユニットだったら一番コストが合うか、新エネルギービジョンと合わせ、研究を重ねているところです。それでいくつモデル地域を指定し、来年度あたりから、モデル地域で実験的にやってみて、普及型のモデルを作っていこうと思っています。

いずれにしても、ペレットのボイラーの数が増えれば増えるほど、高知県を豊かにするという点では良いと思います。当初のインシヤルコストの補助金はかかりますが、国にもそういった補助金の制度もあり、県もそれをうまく活用することで、今回の補正予算の中でも加速していくなど、今後、取り組みを進めたいと思っています。

ハウスをよりハイテクなハウスにして、燃料高騰に強いハイブリッド型のハウス、できれば、オランダのヒートポンプみたいな技術も組み合わせることができないか。農業技術センターのほうで研究を開始したところです。いずれにしても燃料高騰に影響を受けにくい園芸農業を目指していかなければいけません、その取り組みをまず始めようと思っています。

アクションプランの関係で、「まとまりのある園芸産地づくり」というのは、非常に重要なことだと思います。系統外の皆さんとの話し合いの点について、県としても対応させていただくようにします。

「まとまりのある産地づくり」として、園芸連をはじめとする系統を守っていくということは非常に大事なことだと思います。県外との価格競争に勝っていくためにも、価格支

配力を持つためにも重要なことだと思います。もっと言えば、系統がなくなると一番困るのは最も弱い立場にある農家の方だと思うんです。高齢者の方がちょっとだけピーマンを作った、ナスを作った。それは系統に乗ることによって、一定のお金になっていく。そういう意味においても、系統というのを維持していくということは非常に重要なことだと思います。他方で、系統の力を維持していくためにも、いろいろな人の工夫が十分反映されていくような系統であることが非常に重要と思っています。例えば、特別な技術で作ったものは特別な技術のものとして販売されていくといった、まとまりはあるけれどもキャラがたっているという、そういう系統販売というのを是非目指していくために、いろいろご指導いただいているところです。日本の大田市場でも負けない、どこに行っても負けない、高知県の園芸というのを引き続き発展させていきたいと思っています。

学び教え合う場をつくっていくことが非常に重要だと思っていまして、この東部地域で、29か所出来ているところです。まだまだ参加者を増やしていきたいと思っています。

J Aさんのレンタルハウスの話は素晴らしいですね。2年の研修のスキームのあとに、J Aさん単独でやられると、実効性がありますね。2年だとまだ独り立ちされたばかりできついというところをサポートするわけで、素晴らしいと思います。